



近江の古瓦 IX 大津 3

「大津の3」としては、前稿「大津の2」で述べたように、南滋賀廃寺出土瓦のうちの平安時代のものについてまず説明し、その後で錦織地区や園城寺・靈山正福寺出土の瓦について述べることにします。

南滋賀廃寺については「大津の2」で寺院の大要を説明しましたので、ここでは改めて申しません。その瓦は近江神宮所蔵品が殆どですが、残念なことに近江神宮所蔵品は南滋賀廃寺と崇福寺跡の出土品の区別がされておりません。したがって報告書に載せられているもの以外は正確なことがわかりませんので、ここに挙げたものも正確には南滋賀廃寺の出土品か崇福寺跡のものか疑問のものもあります。軒丸瓦(9)軒平瓦(14)及び(18)から(22)のものがそのような瓦です。またこの瓦の中には、瀬田や石山方面、あるいは京都の出土品と同範、もしくは同系統のものも少なくありません。例えば、瀬田や石山方面に同系のものが見られる瓦には(1、2、6、10、11、13)などがあり、京都に同系の瓦があるのは(4、12)ですが、詳細に調べるとさらに見つかるかもしれません。ただし軒丸瓦の(12)は報告書の中で「錦織附近の出土品ともいふ」と述べており、錦織出土品の中に入れるべきかもしれません。また軒平瓦の(20、21、22)は京都の複線唐草文に似た文様のもので、これらの瓦と関連があるのかとも思われます。そして複線唐草文の軒平瓦が錦織で出土していますから(29)、これらも錦織出土の可能性もあります。また軒丸瓦の(10、11)は内区が蓮華文でなく唐草文になっています。文様から見ると、奈良時代の飛雲

1986. 12. 20

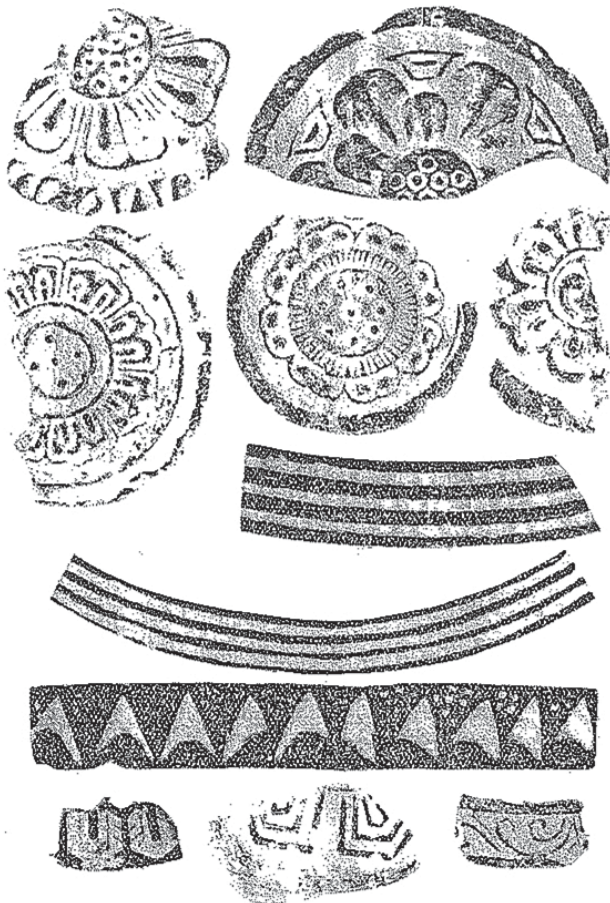
文のものと共に、このあたりだけに見られる瓦かもしれません。この唐草文軒丸瓦は瀬田・石山・志賀方面の外に比叡山上でも見られます。なお軒平瓦の(13)はあるいは奈良時代のものかとも言われていますが、奈良時代の軒丸瓦にこれと対をなすと思われるものはありませんので、一応ここに載せておきます。軒平瓦の(16)と(17)は同範のものですが、中心の部分と唐草の延びた部分がよくわかるので両方を並べて載せました。

以上平安時代の南滋賀廃寺出土瓦について説明しましたが、この廃寺の瓦の全容を知るためには、ぜひ「大津の2」の奈良時代以前のものと一緒に読んでいただきたいと思います。

次に、錦織出土のものはこの地域の住宅建設などに伴う調査で発見されたもので、出土地点は地域内の各所に散在しています。いずれも小範囲の調査で寺院遺構を明瞭に示すものではありません。文献によればこのあたりに園城寺に関係する寺院があったようですから、これらの瓦は恐らくそのような寺院に使われたのでしょうか。瓦はいずれも平安時代に属するもので、錦織では南滋賀や園城寺のように白鳳時代にまで遡る瓦は出土しておりません。ここの瓦のうち(23)と(24)はほぼ同じですが、(23)の方の子葉などがやや太いようです。ただし(23)は実物を見ておりませんので正確には申せません。なお、これと同じ瓦が国分で出土していますが、これは報告書の拓本によれば(23)の瓦と同じものようです。また(30)の軒平瓦は京都栗栖野瓦窯発見のものと同範と思われるし、(32)も

京都に同范のものがあるようです。

園城寺は天台宗寺門派の総本山で、その歴史は智証大師からはじまりますが、寺の創建はさらに遡って白鳳時代であることを寺伝や出土瓦が示しています。一般には「三井寺さん」で知られ、観音霊場西国三十三ヶ所第十四番札所として有名です。この地出土の瓦としては前述の如く白鳳時代に属するものが最も古く、外区に特殊な文様を持つ軒丸瓦や重弧文の軒平瓦が「園城寺之研究」という大冊の中で石田茂作氏によって報告されています。この報告ではさらに多くの瓦の拓本も報告されており、これらは一括してこの小文に転載しました。この古瓦の中にも京都など各地の寺院出土のものと同じものがあることが同報告で述べられております。南滋賀廃寺や錦織園城寺出土の平安時代の瓦の中には京都のものとの関係の大変深いものがあり、崇福寺跡出土品や石山・瀬田地区のものを含めて、この地域の瓦は今後詳細に京都の瓦と比較検討

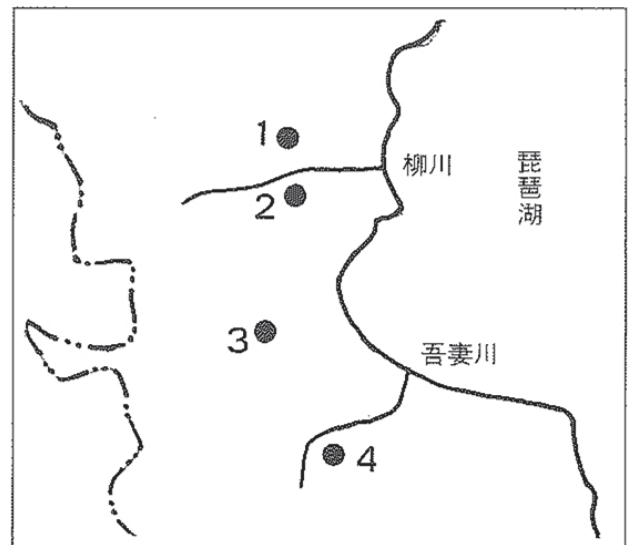


園城寺出土古瓦拓本(縮尺不同)「園城寺之研究」より

する必要があります。なお、先年防災工事で発見されたものがあり、写真で示したものはその際の出土品です。(35)は早くから園城寺出土瓦として知られている種類で、園城寺の代表的な瓦です。また、写真(34)や拓本の右上のものは他に例を見ないものです。

霊仙正福寺は国鉄大津駅の南方逢坂小学校に続く山麓にある寺院で、寺伝ではその創建が平安時代初期となっています。ところが最近それより古いと思われる瓦が同寺の境内で発見されました。写真(36)で示したものがそれで、奈良時代と思われるものです。なお平瓦片の中にはさらに古いと思われるものがあります。また、平安時代の末に播磨国から京都の鳥羽離宮などに送られた瓦と同系統のものも出土しています(37)。これは播磨国のかて神出窯(神戸市垂水区)で焼かれた瓦で、京都のものは院政時代のものですが、この瓦はそれよりはやや時代が降って、鎌倉時代の初頭のものと思われる。近江では珍しい瓦で、しかも京都の平安後期のものとの関連が深い瓦ですからここに載せました。

(西田 弘氏提供)



古瓦出土地位置図

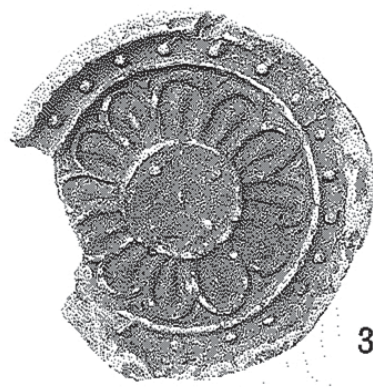
1. 南滋賀廃寺 2. 錦織
3. 園城寺 4. 霊仙正福寺



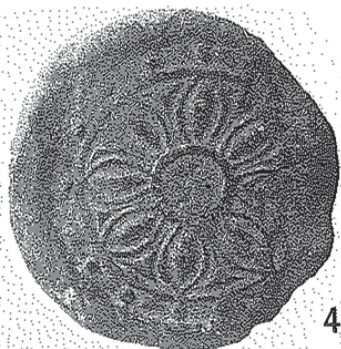
1



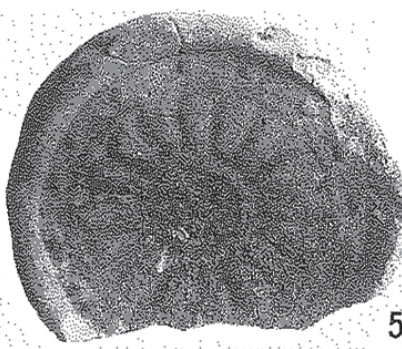
2



3



4



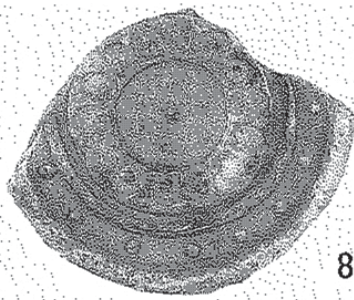
5



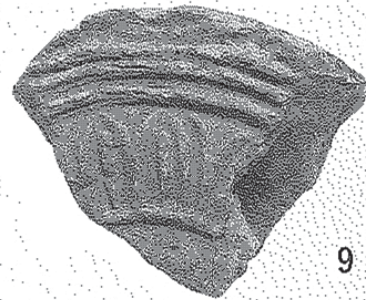
6



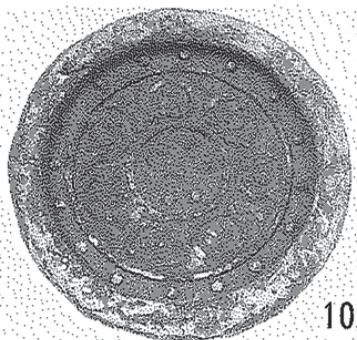
7



8



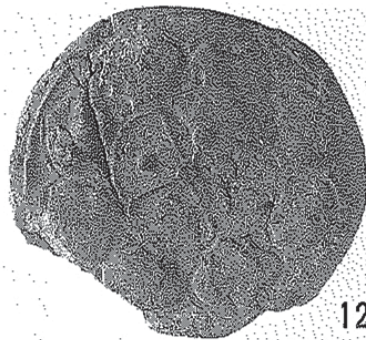
9



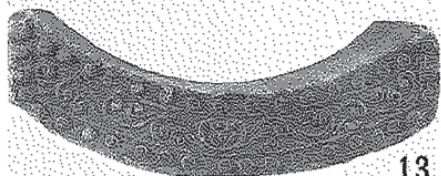
10



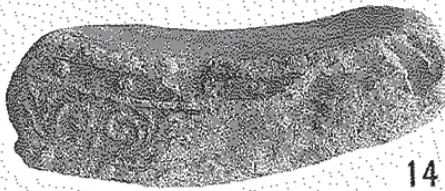
11



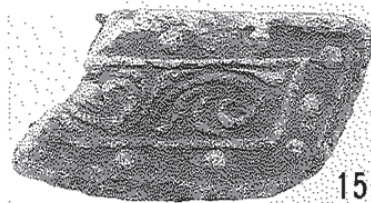
12



13



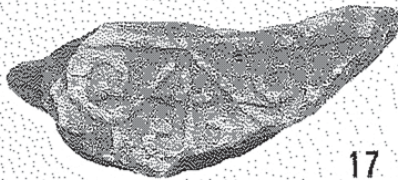
14



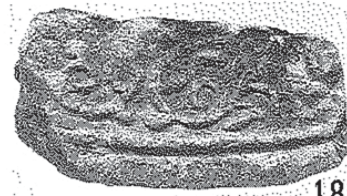
15



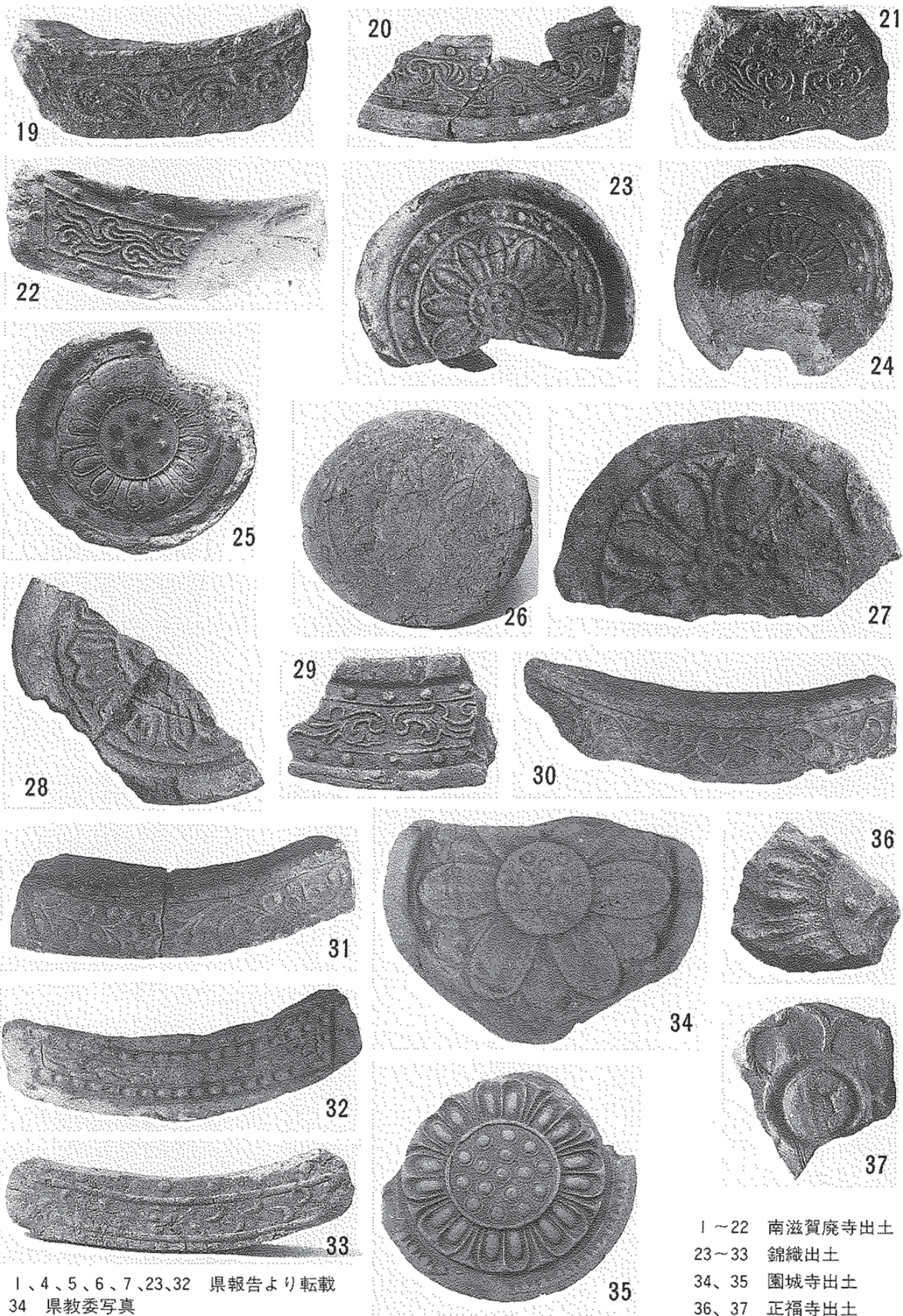
16



17



18



1、4、5、6、7、23、32 県報告より転載
 34 県教委写真

1～22 南滋賀廃寺出土
 23～33 錦織出土
 34、35 園城寺出土
 36、37 正福寺出土